

‘03 春合宿報告書

北アルプス 蝶ヶ岳～常念岳～燕岳

’03 4.27～4.29

CL 鈴木, 板倉, 町田
金子, 竹内, 村越



大天荘から見た槍ヶ岳

デンソ - 山岳部

【春合宿を振り返り】

(計画) 冬合宿の偵察(蝶ヶ岳～常念岳)をメインに、
燕岳までの北アルプス表銀座縦走をコースに設定したが、
春山合宿としてバランスのとれた計画で進めることができたと思う。

(行動) 合宿中の3日間はほぼ無風・快晴の春の好天に恵まれ、北アルプスの主峰である
穂高連峰、槍ヶ岳を間近に見ながらの充実した山行となった。ルートについては、
長堀尾根の登りは積雪も少なく赤布、トレースもあり分かりやすかったが、長堀山周辺
のなだらかな地形は積雪時分かりにくく注意が必要と感じた。稜線上は部分的に積雪
がある程度でほとんど夏道が見えており問題はなかったが、信州側に張り出す雪庇に
対する注意と、夏道と雪道のルート選択には注意が必要と感じた。
今回はメンバー各自体調もよく、計画+ のスピードで余裕を持って行動をする
ことができた。

(冬山偵察) 今回の偵察からのポイント

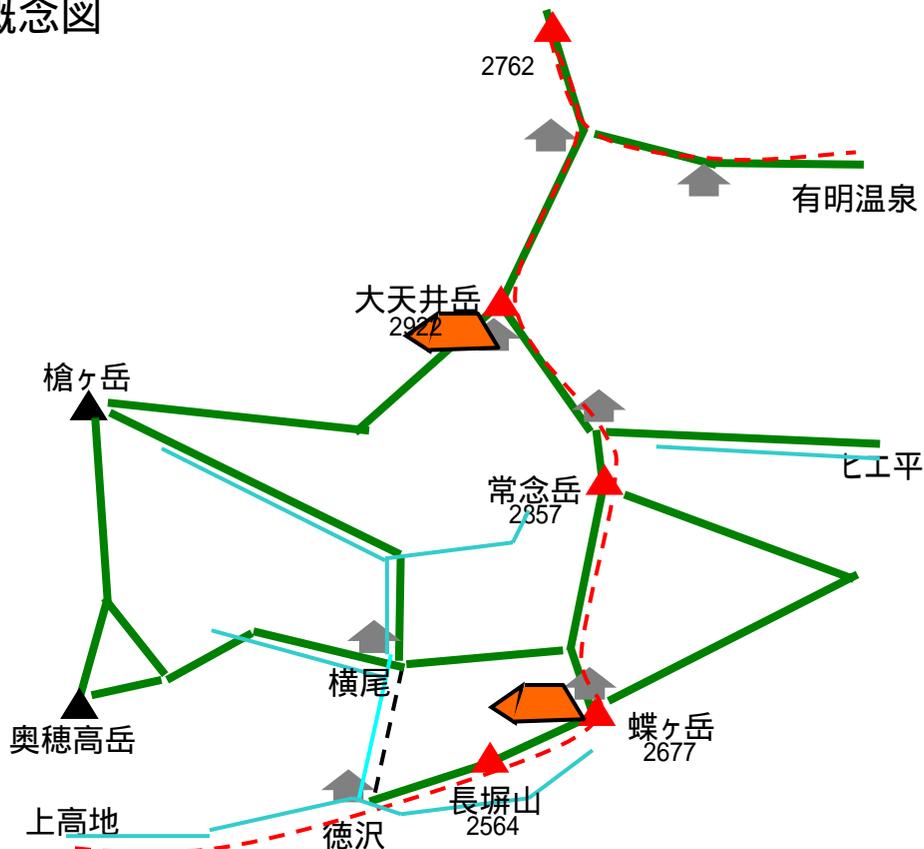
常念岳から下山の場合のルートをしっかり偵察する(前常念から三股)
蝶ヶ岳以降の稜線上での強風に対応できるようにする

(食糧) 食糧担当の適切な計画・準備により、質、量共に満足いくメニューで合宿を楽しませてくれた。

(装備) 今回4～5人用のテントを2張持っていったが、7～8人用の軽量のテントを1張持っていったほうが、荷物の軽量化となる為、今後導入を検討したい。コンロはコールマンを2台持って行ったが事前の整備により故障もなく使用する事ができた。火力の微調整が出来ないことが難点であり、それが可能なコンロの導入を検討したい。燃料の白ガソリンは4.5L持っていったが、好天により気温も高く1.5L使用で済んだ。

最後に、留守部員の皆様をはじめ、差入れを頂いた方々、および下山口まで車で迎えに来て頂いた亀山さんに、合宿にご協力頂いた事をこの場を借りて御礼申し上げます。
(CL・鈴木 記)

コース概念図



【4月27日(日)】 晴

- ・ 4:00 起床
- ・ 4:30 松本駅発 (タクシー)
- ・ 5:35 上高地着
- ・ 6:10 出発
- ・ 7:00 明神
- ・ 8:00 徳沢
- ・ 9:15 長堀尾根
- ・ 10:30 長堀尾根
- ・ 11:40 長堀尾根
- ・ 12:35 蝶ヶ岳ヒュッテ

を背にして、樹林の中を進む。しだいに雲が去り、樹林の切れ目から、アルプスの壮大な展望が、目の前に広がり、山の凄さを肌を感じる。長い長い、長堀尾根を登り蝶ヶ岳ヒュッテ手前にテントを張り、陽が沈むまで、山を眺める。

(記・村越)

上高地には大型バス3台。団体の登山者(?)が沢山いる。道に雪はなく、両端に少し残っている程度、雪解け水で川の水量は多く流れが速い。雪の無い平坦な道を進む。明神にはハイカーらしき人を含め多くの人がある。徳沢にはテントが多く張っており、昨日多くの人が入山したのが、見て取れる。我々の後からも続々と、登山者が歩いてくる。山スキーを担いでいる人も何人かいる。少しずつ雲が去り、山様が見え始める。上の方は見えず、後の楽しみにする。多くの登山者は涸沢方面へ、我々は長堀尾根を行く。長い登りの始まりである。いきなりの急登が続く。ずっと登りっぱなし、途中より雪になる。槍、穂高

【4月28日(月)】 晴

- ・ 5:00 テン場出発
- ・ 5:33 分岐
- ・ 5:40 蝶ヶ槍
- ・ 6:08 コル
- ・ 7:23 常念岳手前
- ・ 9:40 常念岳頂上 (2857m)
- ・ 10:30 常念小屋
- ・ 12:05 東天井岳手前
- ・ 13:45 大天荘 (小屋)

常念小屋への急な下りを降りていく。大天井までのちょうど中間点になる。ここから横通岳への登りに入ると雪が見えてきた。しかし、横通岳の付近になると、雪も消えて再び、夏道を歩いていく。東大天井岳手前で一本取る。朝出発した時は槍ヶ岳がはるか北西の方に見えていたのが今は、すぐ近くに見える。「もう少しだな」と思った。ここから最後の登りを歩いていく。何組かのパーティとすれ違った。常念小屋まで行く人が多かった。1時間20分ほどで小屋にたどり着いたが、風の通りが良いのでテン場にいい場所を探したら、小屋の少し上に風があまり当たらない場所があった。さっそく、ここにテントを張ることにした。下は雪なので傾斜を整地して設営、天気も良く日も長いこともあって、しばらく外でゆっくりくつろいだ。携帯電話が通じるので、みんなメールを発信しだした。この小屋は営業してなかったが蝶ヶ岳で買ったビールを飲んで夕食はレトルト丼を食べ、テントの中で歌を歌って今日の日を終わった。夜9時に睡眠に入った。

(記・竹内)

午前3時起床、朝食のラーメンを食べて、テントを撤収して5時出発。稜線は雪もなく夏道をそのまま歩いていく。蝶ヶ岳付近にはカメラが穂高方面に向けられて何台かセットされていた。朝の穂高を撮る為に人が集まっていた。そのまま、小屋の前を通り過ぎ、しばらく歩いていくと横尾への分岐につく。そこから少し登ったところが蝶ヶ槍である。北には常念岳が見えている。近くに見えるのだが、これがなかなか着かない。登り下りを繰り返して、最後の常念岳への登りが長かった。頂上まで1ピッチかかった。ここで大休憩である。天気も良く槍ヶ岳も良く見えた。そして、

【4月29日(火)】 晴

- ・起床 3 : 0 0
- ・出発 4 : 5 5
- ・げいろ岩手前 6 : 2 0
- ・燕山荘 8 : 0 0
- ・合戦小屋 9 : 4 0
- ・第一ベンチ 1 0 : 5 5
- ・中房温泉着 1 1 : 2 0

大天井(おてんしょう)岳のテン場は昨夜から満天の星で今日の天気は約束されていた。

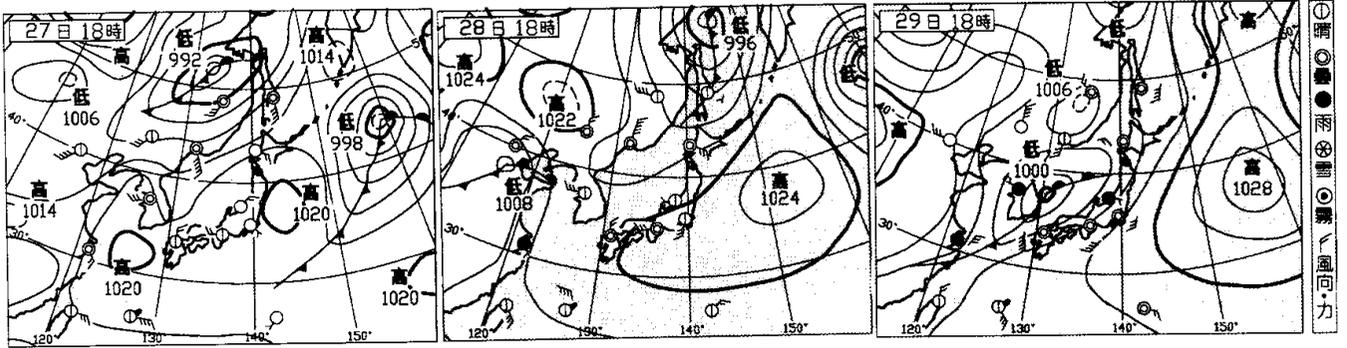
槍穂はすっきりその全容を晴天の空に映している。山頂でモルゲンロートを待つが東の空の雲のせいだろうか、槍穂は期待する朝焼けに染まらない。雪面はガンガンのクラストまではいかないが山頂の登降だけアイゼンをつけた。北方、燕(つばくろ)岳へ向かう縦走路は夏道がくっきり見えており雪面を快適にとばす春山の醍醐味はまったく期待できない。それでも北アルプスのメジャーコース表銀座の縦走はと裏銀座の

山々を眺めながらの快適山行だ。三俣蓮華から黒部五郎当たりの稜線が重なりはっきり判らない、山名にゆれながら「喜作新道」を飛ばす。花崗岩の岩峰の中を苦労して抜けると燕(えん)山荘(ざんそう)は近い。山荘でお迎え予定の亀さんに連絡をつけて燕(つばくろ)岳に町田・金子を除いた4人が空身でピストンする。下降ルート of 合戦尾根はこれまでの夏道と打って変わり、残雪が多く「スリップダウン？」を繰り返しながら一気に中房温泉めがけてくだる。温泉で日焼け止めのクリームを洗い落としながらメンバーと天気にも恵まれた合宿に感謝！でした。

(記・町田)



【気象】 合宿の3日間はほぼ快晴無風の安定した天候であった。
29日の夕方より低気圧の影響で天候が下り坂となった。



4/27 上高地 蝶ヶ岳
天候 晴

4/28 蝶ヶ岳 大天井岳
天候 晴

4/29 大天井岳 燕岳
天候 晴

【会計】

行き	刈谷 松本	JR 乗車券	3570円×6人	21420円
		特急券	2610円×6人	15660円
	松本 上高地	タクシー		22540円
		食料(ビール代含む)		20450円
		中房温泉入浴	700円×6人	4200円
帰り	中房温泉 刈谷	車 (高速代含む)		18000円
			合計	102270円
			1人あたり	17045円
差し入れ	藤田健治さん			5000円
	亀山さん			5000円

藤田さん、亀山さん差し入れありがとうございました

